

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼でホーム内にいつも掲示されている理念を唱和し、徹底するよう取り組んでいる。	法人理念「共に歩む」に沿って法人としての目標が毎年度定められ、また、グループホーム部会としての重点目標も掲げ、当ホームとしての事業目標にも落としこみ、更に各職員の「目標管理シート」を作成し具体的に実践している。4項目の施設目標の中にも「地域との連携」を上げ、職員は地域密着型サービスについての理解を深めている。理念に沿わない言動が職員に見られることはないが、もし反しているようであれば管理者が法人の方向性を説明し理解を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会あるごとに地域の文化祭に参加して、作品出展や当日の参加で交流を図っている。常に地域のみなさんにあいさつを心がけ、そのためか近くの畑から花・野菜の差し入れがある。	自治会に協力を求め、区の防災訓練にも職員が参加している。ホーム脇の農道が保育園児の散歩コースや小学校児童のマラソンコースに組み込まれており、利用者の散歩時にふれあっている。すぐ隣の畑を耕作する顔見知りの近所の方から野菜を大量に頂いたり、今年2月の大雪の際に雪かきの応援などもいただいた。地区の紙芝居や太極拳、傘踊りなどのボランティアも来訪し、利用者のリハビリに繋がるような活動も受け入れている。近くの有料老人ホーム(別法人の)利用者の緊急時の避難場所ともなっており、その利用者とも日ごろからお茶のみ等で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの会議への参加でグループホームの現状紹介をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	広報の紹介などで現在の施設の姿を紹介し、質問・ご意見を頂き、実際の現場へ落としこんでいる。	家族、区長、民生委員、老人クラブ代表、地域包括支援センター職員等が出席し、定期的に会議を開いている。運営状況や活動の報告、事業計画の説明などをホームから行い、質問や意見、助言などをいただいている。委員の助言により利用者が散歩をする際に小学校のグラウンドを使用させていただくことができるようになり小学生との交流にもつながっている。区の文化祭や町商店街のイベント、地区内保育園・小学校の行事などの情報もいただき、ホームの活動に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の市町村のケアマネ連絡会へ参加し、町の担当者との連絡・連絡・協力体制を強くもっている。	町からの依頼で認知症の方と家族の施設見学を受け入れ、お茶飲みを兼ね立ち寄りいただいたり、町担当者からの困難事例についての相談を受けることもある。毎月開かれるケアマネージャー連絡会では研修や情報交換をし、お互いに連携している。また、管理者がキャラバンメイトとして勉強会などの講師の依頼を受け協力している。介護認定更新時には利用者の自宅所在地の調査員が来訪し、利用者の状況などを伝え協働関係を築いている。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアスタッフとしての自覚と誇りを持って、身体拘束はしていない。	身体拘束をしないケアについて毎年度法人の研修が開かれており職員は参加し理解を深めている。また、法人本部の活動の一環としての委員会のうち、ホームにも4つの委員会があり、そのうちの医療安全委員会で取り上げた資料などの共有化を図り、利用者の意思や行動を抑制することのないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳を大切に、身体的・精神的虐待の防止に細心の注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・講演会へ積極的に参加し、必要な支援ができるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に丁寧な説明をしている。また、質問しやすい雰囲気作りにも努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常より馴染みの関係を大切にすることを心掛け、ご家族様からの小さな一言も記録・共有して運営に生かしている。	認知症度は高いが身体機能的には自由の利く利用者が多く、利用者うちのほぼ8割の方は自分の思いや意見、不満などを伝えることができる。言葉で伝えられない方には言葉がけに対する仕草や表情などから読み取るようにしている。家族会を春・秋の年2回ほど開催し意見や要望をお聞きしたり、利用者の最近の状況を知らせている。また、家族だけのお茶会も持ち、お互いの思いを伝え合ったり、同じ法人のバックアップ施設の看護師による相談の場を設け家族からの質問や要望に応じている。また、四季折々のホームの活動状況を記したホームだよりを家族あてに配布し家族とのコミュニケーションにも活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会で職員からの意見・提案を話し合い、運営に反映している。	月1回の職員会議や毎日の申し送り、日ごろのやり取りの中で管理者と職員の良好な関係が築かれており、意見や要望は運営に反映されている。ホーム独自の取り組みとして各棟に一人ずつの業務改善係を置き、日常業務で職員の疑問や課題をまとめ管理者と協議し解決に向けて検討している。また、職員は「目標管理シート」を作成し、上期・下期に振り返り、管理者と面談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員にこまめに声をかけるよう努めている。また、昼休みの確保など、働きやすい職場環境をつくるために、職員と話し合っ、業務改善を進めている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・施設内の研修に参加しやすい、また前向きに受けていく機会の確保をすることで技術と知識の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のケアマネ連絡会での情報交換や相互に施設見学を行って、他施設に学ばせて頂いている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に関する情報を収集するほか、日常の地道なケアを誠実に積み重ねながら、信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の情報を収集する段階で、充分にお話を聞くようにしている。また、入所された数日はご様子を家人に電話でお伝えし、安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、その利用者様にとって一番に必要な支援は何か、職員間の情報交換を密にして見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と目線を合わせ、本人の持てる能力に応じて役割を分担していただきながらともに生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を共有し、協力しあう事で、共に利用者様を支えていけるパートナーとしての関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人・家族などなじみの方々が多数訪れてくださるので、訪問しやすい環境、居心地の良い環境作りに努めている。	自宅近所の方や昔の仕事仲間の来訪を受け入れ、居室でお茶を飲んだり、ゆっくりと話をいただいている。誕生日に家族と一緒に馴染みの食事処に出かけたり、馴染みの美容院に行く利用者もいる。昔からの習わしを大切に、お盆や年末年始、お祭りなどに自宅へ帰り、親戚や近所の人々との関係を継続している利用者もいる。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う利用者様同士が関わりの時間を持てるよう、両棟の行き来が自由にできるよう配慮している。また、利用者間の関係を考慮して、席の位置を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	立ち寄りやすい、雰囲気作りと行事への誘いをおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動の中から、本人の希望や想いを把握できるよう、カンファレンスなどで職員間の情報交換をし、共有している。	身体的な機能の高い利用者が多く、思いや意向を口頭で伝えることのできる方も多い。「家へ帰りたい」、「このテレビ番組をみたい」、「～を食べたい」といった利用者からの要望について忘れないうちにその場で対応するようしており、可能な限り叶えられるようになっている。また、ホームでは毎週木曜日を「活動の日」としており、利用者の自主性を引き出し、ドライブや外食、歌やテラスでのお茶会など、できること、好きなことをしていただけるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家人より聞き取った情報を個人ファイルに綴り、全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランにそって介護記録をつけ、カンファレンスを通して利用者様の現状を総合的につかんでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを立てた段階でご家族に内容を説明し、意見をいただいてプランを完成させている。	計画作成担当者がそれぞれの棟に一人ずつおり、本人の意向を具体的に目標として上げ、家族の要望も聞き入れ作成している。サービス担当者会議を開き、基本的に6ヶ月で計画の見直しを行っており、利用者の状態に特別の変化が見られたときには随時計画を変更している。今のところ利用者の状態は安定しており、大きな変化の見られる方はいない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を丁寧に行い、日々変化する様子を伝えあい・共有出来ている。その時々々の状態に対応できている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関わり・一緒に過ごす事を優先させることで、希望や思いを読み取り、サービスに生かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんの訪問を多く持ち、傾聴ボランティアさんとゆっくり会話をさせていただくことで、地域の今を感じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連絡体制を取りながら、家族との連携で医療が円滑と円滑に繋がれるよう支援している。	利用前からのかかりつけ医を継続することを基本としているが、月2回往診していただける診療所が近くにあることからそちらに変更する方もいる。かかりつけ医以外の診療科目の受診については家族の付き添いを基本としており、受診前の状態や受診後の結果についても家族と連絡を取り合っている。母体ともいべき隣町にある同じ法人の老人保健施設の看護師とも連携しており、週1回の来訪があるほか、利用者に状態変化が見られた場合に備え24時間のオンコール体制もとられ、きめ細かな対応がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、定期的に当施設の担当ナースが来設し、利用者様の健康管理を行っている。利用者様の情報を共有し、相談しつつ適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は時々訪問して本人の状態を見ながら、病院のソーシャルワーカーと密に連絡をとり、治療の方針や退院の時期について、話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の変化に合わせ、必要時は医師・担当ナース・ケアマネ・本人・家族で話し合い、今後の方針を決めている。	法人としての「重度化した場合における対応に係る指針」が重要事項説明書に記載されており、利用開始時に利用者や家族にも説明がされている。開設5年目を迎えようとしているホームであるが、看取りの事例も数例あり、今年度もお一人の利用者をお見送りした。医師や看護師との連携をとり、直前には家族も数晩泊まり込み、最期を迎えることができた。ホームでは一人ひとりの状態や変化に合わせて関係者と相談しながら家族の意志も確認しながら見極めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的にナースに連絡をし、その指示で動くため、特別に訓練は行っていないが、緊急時のマニュアル・緊急連絡網を整備し、伝達訓練をおこなっている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害を想定した避難誘導訓練や地震対応の訓練を行っている。地域の防災訓練の情報を頂ける体制がある。	法人の一斉防災訓練も含め年間3回、防災訓練を実施し利用者も参加している。ホームには防火防災委員会があり、訓練の計画や準備、消防署との調整を行っており、定期的な防災訓練のほかに法人としてミニ訓練の実施も毎月義務付けられていることから率先している。地区の防災訓練にも職員が参加し、万が一の時に連携できるようにしている。今年の8月、隣接地に同じ法人の運営する特別養護老人ホームが開設され防火管理者が兼務しており連携体制が強化されている。	特に夜間の、万が一の場合に限られた職員では利用者の避難誘導は難しいものと思われる。地区の方にも応援がいただけるよう防災訓練への参加を働きかけていただくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心を温める一言を理念に掲げて、人格を尊重した言葉かけを心がけている。	法人として「利用者様本位のケアの重視」を掲げており、「お世話をさせていただく」という謙虚さと「人生の先輩であり、大切なお客様」として接している。職員は100項目からなる「接遇チェックリスト」を半期に一度自己評価し管理者宛提出している。利用者の呼称についても文書や対外的には「～様」、また、「敬意をもったあいさつ」などについて周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的に地域のパン屋さんやお菓子や果物などを販売する商店が玄関でお店を開いていて、買い物を楽しむ機会を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝自由で夕食後にゆっくりと眠くなるまでおしゃべりやテレビを楽しんでいる。寝坊をしたい方には起きていらしたときに朝食を出している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性にはひげをそるよう声をかけをしたり、そり残しがあれば、お手伝いしている。着衣も声かけで、好みの服を選んでもらう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・盛り付け・片付けをできる利用者様が分担して職員と一緒にやっている。	食事介助を必要とする方はわずかで、トロミやキザミ、おかゆでの対応を必要とする方も若干名と自力で食べられる方が多い。利用者も自主的に調理、食器洗いや食器拭きなどに参加している。テラスで食事をしたりお茶を飲んだり、近くのハンバーガーショップから配達をしていただくこともある。庭先のプランターで夏野菜を育てている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつでも水分補給ができるようカウンターにポットに入れた麦茶を常備している。また、食形態やお茶ゼリーなどで個々の体調に合わせて対応している。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日中は口腔ケアの促しをし、夕食後は職員が関わって丁寧にケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声かけや、トイレ誘導でおむつの使用を減らすように努めている。	殆どの方が見守りを必要としており、排泄パターンに沿って定時誘導し、できるだけトイレで排泄できるようにしている。布パンツを使用している方は数名で、大半の方がリハビリパンツを使用しており、一人ひとりに合わせ介助用品も使用している。トイレまでの時間がかかることから安心のためポータブルトイレを居室に置いている方もいる。トイレも各ユニットに3ヶ所あり廊下から見て横だしの表示が入口上部に付けられている。人前で失敗したような時には職員がそれとなくトイレや居室に誘導し着替えなどを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、食材や水分摂取を工夫している。排便チェックを行い、早めにナースに相談し、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴を楽しんで頂いている。回数は希望や時間にこだわりのある方は個別に対応している。	入浴について自立をしている方が2割ほどいるが見守りを必要としている。一部介助を必要とする方が大半で午睡の後の2時間ほどを入浴に当てている。ごくわずかではあるが入浴を拒否する方もおり、午前中に声がけし、時間を置いたり、担当者を変え少なくとも週1回は入れるようにしている。入浴時の異性介助については時々拒む方がいるのでその都度ユニットごとに対応している。ドライブも兼ね諏訪湖畔や近くの公園にある足湯に出かけたり、家族と一泊の温泉旅行に出かける利用者もいる。ホームの庭でとれたカリンをお風呂に浮かべたり、菖蒲湯などを楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の希望は丁寧にに対応している。それぞれの方の気持ち良いや安心を読み取れるよう気配り目配りを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・用量・副作用については理解している。確実に飲めるよう服薬管理には細心の注意をはらっている。医師・担当ナースとの連携もとれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好みを考えて、草むしり、野菜作り、調理や、気分転換のドライブも兼ねて食材の買い物について行っていただき、それぞれに感謝の気持ちを伝えている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や美術館へ、また白鳥の飛来などのニュースで諏訪湖畔の足湯へ出かけたりと気軽に外出している。	一時的に車椅子を使用している方はいるが、職員の見守りを受け歩行器を使ったりして自力で歩行している方が多い。日頃はホーム周辺の農道を散歩し畑の住民などと挨拶を交わしている。毎週木曜日を「活動の日」としているので、初詣や花見、ぶどう狩りや紅葉狩りなどにも出掛けている。隣町にある同じ法人の老人保健施設で行われる絵手紙教室や習字教室に出かける利用者もいる。庭に面したウッドデッキでお茶を飲んだり、西瓜割りなどを楽しみ、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問店などの機会にお財布を持つなど機会を増やしていく工夫を検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人に電話したいというご希望があれば、電話をかける支援をしています。また暑中見舞いや年賀状など大切な方へ出す機会を持っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に花が飾られ、清潔と心地よさに気を配っている。暖かい雰囲気作りには自信がある。	庭に面してL字型に二つのユニットが配置されておりリビングや食堂の窓は広く明るい。厨房も広く、本来の設計はそのスペースで食事を摂ることを意図したのではないかと思うほどゆったりとした広さがある。テレビやソファ、洗面台などにも広いスペースが割かれ、昼食後にくつろいでいる利用者も見られた。床暖やエアコンで快適な温度に保たれているので利用者も心地良さそうであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	景観の良い窓辺やウッドデッキにいつでもゆっくりと過ごせるよう椅子が用意されている。ソファに清潔なブランケット・クッションを常備して、気持ち良い場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人と相談し、居室には馴染みのある家具を持ってきていただいている。	各居室の入口には花の名前のプレートが付けられており、入口の引き戸と窓も障子風で床の木目のフローリングと相まって居室全体のトーンも落ち着いた雰囲気である。押入れが造りつけとなっているほかは、利用者のお気に入りのものや使っていたものが持ち込まれている。壁に自作の塗り絵カレンダー、算数ドリル、職員からの感謝状などが張られた居室も見られた。籐椅子、テーブル、ベッドなど利用者のくらしに合わせ配置がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を横出しする事で、遠くからでもわかりやすくなり、居室の入り口に目立つ目印をつけて、迷わない工夫をしている。		